

# 誠美だより

# 8

2014/AUG



誠美保育園

## 廃刊、そして拡散

今年も暑い夏が続いています。

さて、突然のそして事後のお知らせと  
なってしまうましたが、先月7月号を  
もって「誠美マガジン」を廃刊致しまし  
た。といいましても、お便りがなくなる  
わけではなく、一冊として発行していた  
ものをそれぞれのクラスのページに解体  
し、それぞれを単独で発行していく形に  
していくという事です。

園全体の情報がまとまって発行される  
ことの良さもあつたのですが、「これをお  
伝えたい!」というタイミングは、  
クラス毎に、また職員ごとに異なるのは  
当然のことで、そこをできる限り外した  
くないというのが第一の理由です。

園からご家庭への情報発信には口頭、  
掲示物、配布物や行事、面談、懇談など  
様々な方法と形があり、その内容に応じ  
たものが選ばれていきます。掲示につ  
きまして、文章や画像、そしてそれをス  
ナップにとどまらず、ショートストー

リー、ロングストーリー(絵巻)として  
構成するなど、その表現方法も年々変化  
し、バリエーションも広がってきました。  
そうした中、マガジンの内容が掲示内容  
をなぞる形になってしまふ事もあり、園  
からの情報発信全体を見渡した時の「お  
便り」の意味をもう一度考えていきたい  
という思いもあります。これが第二の理  
由です。

また原則、クラスの便りはそのクラス  
のご家庭への配布となりますが、他のク  
ラス、そしてこれから進級していくクラ  
スのようすを知って頂きたい、という思  
いは変わりません。そこで、全クラスの  
便りをご自由にお持ち頂けるような場所  
の整備も、進めてまいりますのでお待ち  
下さい。

いままで以上に、クラスの色、そして  
担任たちの思いや考えが伝わり、紙面か  
らスタツフひとり一人の個性が立ち上が  
るような便りを届けていきたいと思っ  
ています。もしかしたらこれが一番の理由  
かもしれません。

誠美マガジンに対する長きに渡るご愛顧ありがとうございます。そして、新しくなる「便り」の数々をよろしくお願ひ致します。  
(園長折井誠司)

## 8月のカレンダー

8月	11 (月) 防災訓練
	19 (火) 乳児健診
	20 (水) 発育測定 (K)
	21 (木) 発育測定 (012)
29 (金) 誕生会	
9月	1 (月) 懇談会
	~ 8 (火) 1日:つき 2日:ほし・たいよう 3日:はな 4日:あか 5日:しろ 8日:あお
	3 (水) 全園児健康診断

編集者 誠美保育園  
集人 折井誠司  
発行人 折井誠司  
印刷所 誠美保育園  
発行所 誠美福祉法人 誠美福祉会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2

電話 042-675-1551

ファックス 042-677-1564

E-mail seibi@hoikuen.jp

http://hoikuen.jp/

<http://hoikuen.jp/higenote/>

## 七夕を迎えた



笹竹は、近隣の公園の竹林から頂いてくる。そのお札にと、子どもたちが届けに行く。そんな関係がこ数年続いてい

そしてその笹に、親子の願いを込めた短冊を飾る。子どもの字、おとなの字、さまざまなの思い、親の思いがしたためられていく。

時折、遊びの輪を離れ、みんなの願いを覗きに来る子どもいる。身の回りの日常の経験を通して、段々と文字の存在やその価値を知っていく、その絶好の機会となっていく。

この時期、読んだり書いたりする事は大した問題じゃない。おとなが聞き取って書いてもいいし、みんなの短冊を讀んで上げていい。自分の言葉や思いが一片の紙に、何だか線の集合体となって表現されていく一連のプロセスを、おとなといっしょになつて体験することが、この

「家族みんなの姿なのだ。」  
子どもたちといっしょになつて、ぶら下がった今年の短冊をめぐってみる。  
「家族みんな 笑顔で 過ごせませすように」  
「家族みんな 健康で いられますように」  
「家族いっしょに、ありふれた日常を過ごすことの幸せ。」  
「歯が生えますように」  
「たくさん 食べますように」  
「早く身長が伸びて あそびにもあつちにも 手が届きますように」  
「元気に 大きくなりますように」  
そしてほんの少し 勉強してくれますように」  
ささやかで、ピンポイントな願いが伝わってくる。

「雪の女王に なれますように」  
きつと来年は、違うものになりたいたいと言っているのだらう。充実した今を生きたら、来年はいつの間にか違う自分に「成」っているのだから。

文字は書くため読むためにあるのではなく、思いを表現するためである。表現せずにはいられない、人に伝えずにはいられないような、心震えるものが内側に生まれなければ文字は生きない。そのため何かに響く「感性」を形作っていく事に注力するのが、この乳幼児期なのだと思う。

「地球がしあわせになれますように」  
日々忙しく生きる中で、人はそれを問はず事もなく、あれもこれもと望んでばかりいる。まささらな短冊を目の前に置いた時、自分の本当の願ひに気づけるのかもしれない。

「保育園の先生に なれますように」  
「大きくなったら ライオン になりたい」

「雪の女王に なれますように」  
きつと来年は、違うものになりたいたいと言っているのだらう。充実した今を生きたら、来年はいつの間にか違う自分に「成」っているのだから。

(Inge)